

ヨブ記結晶の学び#3:旧約でヨブが神の消耗させることとはぎ取ることを経験することは、新約におけるパウロの経験にはるかに及ばない 2/15-21 **OL Summary: I** ヨブは極みまで憂慮し、困惑し、惑わされました。なぜなら、彼は完全で、正しく、高潔であったにもかかわらず、災いが彼の所有物と彼の子供たちに臨み、災いの病が彼の体に臨んだからです。A. ヨブは自分の生まれた日をのろったとき(それは自分の母をのろうことと等しいです)、確かに完全でなく、正しくなく、自分の高潔さを保ちませんでした。むしろ、彼は高潔さにおいて破綻しました。B. 神の意図は、自分の完全さと正しさの中にある天然のヨブを取り壊して、神の性質と属性を持つ新しくされたヨブを建て上げて、ヨブを神の人とならせ、神のエコノミーにしたがって神で構成することでした。そのような人は(パウロのように)、決してどのような困難や問題にも惑わされず、自分の生まれた日をのろったり、生きることより死ぬことを願ったりはしません。C. ヨブは自分のすばらしい過去について思い巡らし、自分の悲惨な現在についてため息をついていました。彼は、自分の正しさ、義、高潔さ、完全さを堅く保ち、誇ってさえいました。しかしながら、パウロは訓練して、後ろにある過去の事を忘れて、現在の「今日のキリスト」を最も満ち満ちた程度にまで獲得しました。D. ヨブは彼の三人の友に対する八回の語りかけを通して、自分が以下の特徴を持つ者であることを自ら暴露しました/ヨブは自らを義しい者としました。彼は、自分の天然の人の成功や成就によって暗くされていて、自分の状態に満足していました。しかしながら、彼は神の御前にみじめな状況であることに気づいていませんでした/ヨブが神を認めていたのは名ばかりであって、実際においてではありませんでした。彼は、神によって浸透されておらず、神で満たされておらず、神とミングリングされて神と一になってはいませんでした。E. ヨブも彼の友も、神がヨブを対処する目的について、使徒パウロが新約の信者に告げたようには知りませんでした。信者が受けている患難は、彼らに永遠の重い栄光をもたらすためであり、それは栄光の神が彼らの栄光なる分け前となって、彼らに獲得させ享受させて、永遠に至るといことです。F. もしヨブと彼の友が時間を費やして、へりだりの霊の中で神を尋ね求め、祈りの中で彼らの霊を活用していれば、神は彼らに次の事を示すことができたでしょう。すなわち、再生され、造り変えられ、栄光化された、キリストにある聖徒は、天然の人と何の関係もなく、また天然の美德をもって自分自身を建て上げる必要はないということです。G. この天的なビジョンは彼らを、35の章にわたる、時間を浪費する、痛みを増し加える、空虚な弁論から救っていたことでしょう。これらの章は、一群れの盲目な人々が暗やみの中で模索している記録です。彼らは神について論じ、彼らの霊にも言及しました。しかし彼らは、三回にわたる長い弁論の中で、彼らの思いを活用しました。そして、彼らの霊を用いてヨブのために祈ったり互いに交わったりはせず、それゆえ彼らがみな神に触れ、神を彼らの命、光、霊的供給として受け入れることはできませんでした/もし私たちがバイタルグループを持つとするなら、ヨブ記にあるこれらの人の対話から警告を受けなければなりません。私たちがヨブ記の中で見るグループは、私たちに消

極的な例を与えています。それは、今日私たちが召会生活の中で持つべきでない種類のグループ集会です。II. 旧約でヨブが神の消耗させることとはぎ取ることを経験したことは、新約におけるパウロの経験にはるかに及びませんでした。A. 神が消耗させることは、私たちに疲れ果てさせることです。神がはぎ取ることは、私たちがキリストを生かし出してキリストを表現することに置き換わる私たちの天然の高潔さの総合計(私たちの性格における天然の完全さと正しさ)を、取り壊し、取り去ることであります。B. 毎日、毎時、ヨブは消耗させられており、喜んでいませんでした。しかし、新約では、神の消耗させることとはぎ取ることは、喜ばしい事となります。パウロは回心した日から、神の消耗させることとはぎ取ることの下にいた人であり、主の中の囚人でした。しかし、彼は喜びと歓喜で満たされていました。C. パウロは、キリストと共に十字架につけられました。終結させられ発芽させられることを通して再び生まれることは、再生されて十字架につけられることです。私たちはパウロと同じように、再生されて十字架につけられましたが、その目的は、その時から、生きているのがもはや私たちではなく、キリストが私たちの中に生きるためです。D. 今、私たちのクリスチャン生活において、私たちは死を通して生きます。死を通して生きることが、十字架を負うことの正しい意義です。E. パウロは神の消耗させることとはぎ取ることを経験したとき、四方から圧迫されても窮することはなく、投げ倒されても滅びませんでした。パウロは自分の生まれた日をのろわず、生きることより死ぬことを願うとは言いませんでした。その反対に、パウロは多くの考慮の後、その信仰に対する聖徒たちの進歩(彼らの命の成長)と喜び(キリストに対する彼らの享受)のために、なおも生きるとを願うと言いました。F. パウロはキリストのために苦悩していたとき、十分に喜んでおり、幸いであり、自分の経験のゆえに主の中で歓喜さえしていました。G. パウロは、キリスト、彼の復活の力、彼の苦難の交わりを知って、キリストの死へと同形化されることを求めました。彼はキリストの死を、自分の生活の原型としました。そして、キリストの死にかたどられることは、パウロのたいなる喜びでした。H. パウロはイエス・キリストの霊の満ちあふれる供給によって、生きるにも死ぬにも、キリストを生きることによってキリストを大きく表現しました。神は人を創造したとき、人がこのような生活をするを願いました。I. パウロが言った事は、絶えず彼の体にイエスの致死力(殺すこと)が働いており、また絶えずイエスのために死に渡されており、それはイエスの命が、自分の死ぬべき肉体において現されるためであるということでした。私たちが主の死の殺しの下にあるとき、彼の復活の命は、私たちを通して他の人たちの中へと分け与えられます。J. パウロが神の消耗させることとはぎ取ることを経験したときに言った事は、私たちの受けるつかの間の軽い患難が、ますます卓越した永遠の重い栄光を、私たちにもたらすということです。K. ヨブは自分の受けた患難をとて重いものと考えましたが、パウロは自分の患難をつかの間の軽いものと考えました。私たちは自分の患難を気にするのではなく、私たちがある程度の栄光から別の程度の栄光へと造り変えられることによって、重い栄光としての神が私たちの内側で増し加わることに注意する必要があります。

**CP1:信者の苦難は外側の聖霊の管理であり、
同じ聖霊が内側で造り変えのために働いている**

OL1:ヨブは極みまで憂慮し、困惑し、惑わされました。なぜなら、彼は完全で、正しく、高潔であったにもかかわらず、災いが彼の所有物と彼の子供たちに臨み、災いの病が彼の体に臨んだからです。

OL2:神の意図は、自分の完全さと正しさの中にある天然のヨブを取り壊して、神の性質と属性を持つ新しくされたヨブを建て上げて、ヨブを神の人とならせ、神のエコノミーにしたがって神で構成することでした。そのような人は(パウロのように)、決してどのような困難や問題にも惑わされず、自分の生まれた日をのろったり、生きることより死ぬことを願ったりはしません。

ピリピ3:9 そして、キリストの中に見いだされるためです。それは、律法に基づく私自身の義を持つのではなく、キリストにある信仰を通しての義、すなわち、信仰に基づく神からの義を持って。**1:19-21** あなたがたの祈り求めることと、イエス・キリストの霊の満ちあふれる供給を通して、このことが私にとって救いとなることを知っているからです。そこで、私の切なる期待と希望は、私がどんな事にも恥じることなく、かえっていつものように、あらゆる事で大胆になって、生きるにも死ぬにも、今なおキリストが、私の体において大きく表現されることです。なぜなら、私にとって生きることはキリストであり、死ぬことは益であるからです。

パウロはイエス・キリストの霊の満ちあふれる供給によって、生きるにも死ぬにも、キリストを生きることによってキリストを大きく表現しました。これがクリスチャン生活です。神は人を創造したとき、人がこのような生活をするを願われました。ヨブに対する神の目的は、この「完全で正しい」人を消耗させ、彼の最高水準の倫理において、彼が到達した完全さと正しさをはぎ取ることでした。神の目的はまた、自分の完全さと正しさの中にある天然のヨブを取り壊して、神の性質と属性において新しくされたヨブを建て上げることでした。

最終的に、神の意図は、ヨブを神の人とし、神の具体化であるキリストで満ちし、神の豊満とならせて、キリストの中で神を表現させることであり、ヨブの天然の完全さ、天然の正しさ、天然の高潔さという高い水準の倫理の人とすることではありませんでした。

OL3:ヨブも彼の友も、神がヨブを対処する目的について、使徒パウロが新約の信者に告げたようには知りませんでした。信者が受けている患難は、彼らに永遠の重い栄光をもたらすためであり、それは栄光の神が彼らの栄光なる分け前となって、彼らに獲得させ享受させて、永遠に至るということです。

適用:新人及び青少年・大学生編

新人や青少年の皆さんは、神はあなたが良い人(good man)になるのを願っているのではなく、神・人(God man)になることを願っていることを理解してください。

人は悪が神に敵対していることを理解しますが、善であれば神は喜んでくれるものと誤解しています。サタンはこのことを利用して、人を神のエコノミーから離れさせようとしています。サタンは善悪知識の木であり、神は命の木です。善悪は別の木ではなく一本の木であり、それは知識の木であり、人を神から独立させます。し

かし、命は絶えず、神に依存します。食べることは依存であり、呼吸することも依存です。あなたは毎日、神を食べ飲みし、瞬間毎に神を呼吸すべきです。これが命の木の原則、依存することです。そうすれば、神の命はあなたから周りの人に流れ、同時にあなたは聖霊の実である最高の道徳の美德を表現することができます。**ガラテヤ5:22** しかし、その霊の実は、愛、喜び、平和、辛抱強さ、親切、善良、信実、**23** 柔和、自制です。ここの最高の美德は、表面的な善ではなく、聖霊で満たされた結果としての最高の美德であり、神を表現します。

兄弟の証し: 私は救われて積極的に福音を伝え始めてから、絶えず環境上の苦難がありました。人が救われるといつも喜びで満たされる一方で、「主を愛し福音を伝えるとなぜ、多くの困難を伴うのか?」と考え、困惑していました。例えば、「福音の宣べ伝えのゆえに大学で、度々、悪評を立てられた」、「大学の合気道部で、私が部長になるように皆に期待されていたが、偶像礼拝にかかわらないようにするため(合気道の師範の本部道場では、神棚が設置されている。大学は体育館を使用しており、神棚はない)、部長を辞退した。それが原因で、先輩、後輩から頼りない情けない人と非難された」など、今、考えるとどれもたいしたことではありませんが、当時の私にとっては大きな問題でした。また、同時に薬学の勉強にどうしても興味を持たず、いつも心の中で不平を言っていました。聖霊の管理の下の環境上のアレンジメントをしぶしぶ受け入れている状態でしたので、内側で聖霊を悲しませることが多くありました。しかし、同時に少しずつ聖霊の更新を経験し始めました。

1986年6月に、その年の8月から始まる台北全時間訓練の参加を促す集会在、台北と近郊で何度も持たれました。その集会在、ある無名の若い兄弟が聖霊で満たされて、訓練に参加する主の召しを大胆に語りました。アンドリュー兄弟はアメリカや台湾の多くの有名な同労者がそこにいるにもかかわらず、その無名の兄弟におもに語らせました。アンドリュー兄弟は聖霊の動きに注意を払い、形式には注意しませんでした。彼のこの行動を見て、私は大変驚きました。彼の行動は私の文化的な観念をノックアウトし、破壊しました。私は自分が霊に従って行動していたと考え、実は大部分文化的な観念に従って行動していたのではないかと思うようになり、過去に持っていた確信が壊され始めました。

2020年12月訓練のヨブ記の結晶の学びで、神の民の苦難の目的が明確に提示されています。この訓練と朝毎の食物により、ビジョンが更新されました。私の苦難は、神の刑罰ではありません。聖霊は外側で環境を管理し、同じ聖霊が内側で働いています。それは、私の天然の観念に基づいた生活習慣をはぎ取り、取り壊して、キリストに従った生活を再建するためです。アーメン!

祈り: おお主イエスよ、私が出遭う苦難の目的は、神が私の天然の完全さ、正しさ、高潔さを取り壊して、神の性質と属性を持つ神・人とならせるためです。私が出遭う苦難は、外側での聖霊の管理であり、同じ聖霊が内側で造り変えの働きをします。主イエスよ、私が神の意図を理解して、毎日神を食べ飲みし、瞬間毎に神を呼吸し、主に依り頼み、思いが更新され、造り変えられますように!

CP2:私たちは再生されて十字架につけられた。それはキリストが私たちの中に生き、新創造となるためである

OL1:旧約でヨブが神の消耗させることとはぎ取ることを経験したことは、新約におけるパウロの経験にはるかに及びませんでした。

OL2:もしヨブと彼の友が時間を費やして、へりくだりの霊の中で神を尋ね求め、祈りの中で彼らの霊を活用していれば、神は彼らに次の事を示すことができたでしょう。すなわち、再生され、造り変えられ、栄光化された、キリストにある聖徒は、天然の人と何の関係もなく、また天然の美德をもって自分自身を建て上げる必要はないということです。

OL3:神が消耗させることは、私たちを疲れ果てさせることです。神がはぎ取ることは、私たちがキリストを生かし出してキリストを表現することに置き換わる私たちの天然の高潔さの総合計(私たちの性格における天然の完全さと正しさ)を、取り壊し、取り去ることで、**イザヤ57:15** 私は高くて聖なる所に住み、また、霊が砕かれたへりくだった人と共に住み、へりくだった人の霊を生かし、砕かれた人の心を生かす。

OL4:毎日、毎時、ヨブは消耗させられており、喜んでいませんでした。しかし、新約では、神の消耗させることとはぎ取ることは、喜ばしい事となります。

OL5:パウロは、キリストと共に十字架につけられました。終結させられ発芽させられることを通して再び生まれることは、再生されて十字架につけられることです。私たちはパウロと同じように、再生されて十字架につけられましたが、その目的は、その時から、生きているのがもはや私たちではなく、キリストが私たちの中に生きるためです。**ガラテヤ2:20** 私はキリストと共に十字架につけられました。生きているのはもはや私ではありません。キリストが私の中に生きておられるのです。そして私は今、肉体の中で生きているその命を、私を愛し、私のためにご自身を捨ててくださった神の御子の信仰の中で生きるのです。

ヨブは苦難を受けており、彼の三人の友は来て彼を慰めました。エリフもそこにおいてその状況を助けました。しかしながら、これらの敬虔な人々はヨブのために祈らず、彼らがみなある量の霊的な供給を受けるようにと、霊を活用して互いに交わることもしませんでした。...彼らは神について話し、また彼らの霊に言及しましたが、彼らのすべての弁論には、彼らが霊を活用していたという暗示はありません。

私たちは再生された時、十字架につけられました。...物理的に言って、生まれた時から十字架につけられている人は一人もいません。しかし、あらゆる信者は再生されて十字架につけられています。これは**ヨハネ3:5**の主の言葉、「人は水と霊から生まれなければ、神の王国に入ることはできない」に符合します。

私たちがヨハネの務めの水の中で葬られるとは、私たちは死ぬ以外には何の役にも立たないものであることを自ら認めることを示します。人がヨハネの所に来て悔い改めたなら、ヨハネは彼らを水の中に投げ込んで葬り、死なせ、終結させました。罪人は神に悔い改める時、自分は死ぬ以外に何の役にも立たないことを認識する程度にまで、悔い改めるべきです。

適用:ビジネスパーソン・大学院生編

台湾からの全時間訓練生が来ていた頃、私たちは度々、“Apart from Christ, I am nothing but sin. But, in Christ, I can do all things(キリストから離れると、私はただ罪でしかありません。しかしキリストの中で、私はすべてのことを行うことができます)”と宣言して、日本で福音を伝えると言う難関に立ち向かい、出て行き、多くの人をバプテスマすることができました。主を賛美します!

救われた後も、聖霊の照らしの下で、あなたは主から離れると何の価値もなく、葬られるだけの存在であることに気付いたら、直ぐに悔い改め、「私は罪に他なりません。私は死んで葬られる以外に、何の価値もありません」と祈ってください。

神のエコノミーの中で重要なのは、新創造、すなわち、キリストがあなたの中に生きることです。あなたの中に生きているのは、あなたの高潔、完全さであれば、それは全く価値がありません。ところが、ヨブはこれらの表面上良いものを追求することで、神を獲得しそこないました。神はヨブのこの間違った領域の中の間違った追求をはぎ取り、壊さなければなりませんでした。

ガラテヤ6:15 割礼も無割礼も重要ではありません。重要なのはただ新創造です。

新創造とは、人の中にキリストが生きることです。あなたが妻を愛し、子供を愛し、周りの人を愛することで、キリストがあなたの中に生きているのでしょうか? もちろん、あなたは人を愛すべきですが、問題はあなたが旧創造の中で、天然の命の中で彼らを愛するのか、あるいは、キリストの中で、キリストを生きる方法で愛するのかということです。天然の愛は、神の愛を内容としておらず、神を表現しないので、神を代行して、サタンを脅かすことはできません。主の回復は一群の勝利者を生み出すためです。勝利者とは、自分の天然の人を十字架に付け、キリストがその人の中にパーソンとして生きて、その人とキリストが一つになることです。

ビジネスパーソンは、「**ミングリングのビジョンが資本であり、私たちの働きにおける大胆さである**」をビジネス、召会の奉仕、家庭生活に応用するべきです。リー兄弟のメッセージの抜粋を見てください。「過去私たちの組み合わせには多くの問題がありました。私たちは、若者たちが問題である、あるいは年配者が問題であると思っていました。実は、若者たちも年配者たちも問題ではありません。問題の根は、あなたと主との適合性、主とのかかわり、主との一にあります。この関係が正しく発展するなら、働きは繁栄します。もしそうでないなら、働きは困難になるでしょう。私たちが主と共に同労することは、隣同士の状態で働くことではなく、一人が外側で、もう一人が内側で働くことでもありません。そうではなく、それは両者のミングリングである働きです」。

祈り:おお主イエスよ、新創造とは、人の中にキリストが生きることです。人を愛する時、旧創造の中で彼らを愛するのではなく、キリストの中で、キリストを生きる方法で愛する必要があります。霊を活用し、自分の天然の人を十字架に付け、キリストと一つになって、ビジネス上の、また日常生活でのあらゆることに対応します。あなたから離れたら、私はただ罪でしかありません。しかし私はあなたの中で、すべてのことを行うことができます。アーメン!

CP3:はぎ取られる苦難は、「軽く、一時的」であるが、造り変えによって得られるものは、「重く、永遠」である

OL1:パウロは神の消耗させることとはぎ取ることを経験したとき、四方から圧迫されても窮することはなく、投げ倒されても滅びませんでした。パウロは自分の生まれた日をのろわず、生きることより死ぬことを願うとは言いませんでした。その反対に、パウロは多くの考慮の後、その信仰に対する聖徒たちの進歩(彼らの命の成長)と喜び(キリストに対する彼らの享受)のために、なおも生きることを願うと言いました。

OL2:パウロはイエス・キリストの霊の満ちあふれる供給によって、生きるにも死ぬにも、キリストを生きることによってキリストを大きく表現しました。

OL3:パウロが言った事は、絶えず彼の体にイエスの致死力が働いており、また絶えずイエスのために死に渡されており、それはイエスの命が、自分の死ぬべき肉体において現されるためであるということでした。

Ⅱコリント4:10 絶えずこの体に、イエスの致死力が働いています。それはまた、イエスの命が、私たちの体に現されるためです。

OL4:ヨブは自分の受けた患難をとて重いものと考えましたが、パウロは自分の患難をつかの間の軽いものと考えました。私たちは自分の患難を気にするのではなく、私たちがある程度の栄光から別の程度の栄光へと造り変えられることによって、重い栄光としての神が私たちの内側で増し加わることに注意する必要があります。

16 こういうわけで、私たちは落胆しません。それどころか、私たちの外なる人が朽ちていっても、私たちの内なる人は、日ごとに新しくされていきます。**17** なぜなら、私たちの受けるつかの間の軽い患難は、ますます卓越した永遠の重い栄光を、私たちにもたらすからです。

私たちはみな、すべてが順調で、平穏で、甘く、すばらしい環境を持つことを好みます。...[そうではなく]、私たちは苦難と圧迫の環境の下にあって、それはその霊と共に働いて、私たちの天然の人を殺します。ニー兄弟は、このような環境を聖霊の管理と呼びました。...キリストの死の適用について語る時、ローマ8章は内住する霊に言及していますが、Ⅱコリント4章は外側の環境に言及します。外側の環境は内側の霊と協力して、私たちの天然の人を殺すことを遂行します。

日ごとに、パウロは死の危険にさらされ、死に直面し、自己に対して死にました。彼の体にはキリストの殺すことが働き、それによってイエスの命が彼に現されることができました。キリストの死とその効力は、その霊と複合されており、その霊の中で優勢になります。

複合の霊は私たちの霊の中に住んでおり、キリストの死とその効力を分与して、私たちの霊から私たちの魂に至り、さらに私たちの死ぬべき体にまで至ります。この分与は油塗りであり、油塗りは内住する霊の動きです。主を愛し、主との交わりを保っているクリスチャンは、自分たちの内側で何かが動いているという感覚を常に持っています。その動きが油塗りであり、油塗りは三一の神によるキリストの死と復活を分与します。この分与は、神性、キリストの人性、キリストの死、キリストの死の効力、キリストの復活、キリストの復活の力というこれらすべての要素から成っています。

適用:奉仕者編

人の苦難には、3種類あります。新約聖書のⅡコリント4章が取り扱っている苦難は、第3種類の苦難です。

①人の堕落から来る苦難:最初の苦難は全人類に共通のもので、人は堕落しているため、人には病等の消極的なものがあります。

②失敗から来る苦難:ある人は、会社のルールを守らずいつも遅刻します。その結果、会社を解雇されました。このような苦難は罪や失敗のゆえに起こります。

③イエスのためにはぎ取られる苦難:この苦難は、イエスの証しのために受ける苦難であり、人の天然の達成をはぎ取り、人が栄光から栄光へと造り変えられるという目的のためです。**Ⅱコリント4:11** **なぜなら、私たち生きている者はイエスのために、絶えず死に渡されているからであり、それはイエスの命が、私たちの死ぬべき肉体に現されるためです。3:18** しかし、私たちはみな主の栄光をおおいのない顔をもって、鏡のように見つめ、そして反映して、栄光から栄光へ、主と同じかたちへと徐々に造り変えられていきますが、それはまさに主なる霊からです。

ヨブは高潔な人であり、失敗したわけではありませんが、神はサタンを醜い手段として用いて彼をはぎ取り、消耗させる必要がありました。それは、ヨブが神を獲得し、神で満たされ、神を大きく表現するためでした。ヨブは神のはぎ取りの目的が分からず落胆していましたが、最後に神を見ました。パウロははぎ取られる環境の中で、落胆しませんでした。

Ⅱコリント4:17によるとパウロにとって、消耗させられ、はぎ取られる苦難は、「軽く、一時的」ですが、はぎ取られて得られるものは、「重く、永遠」です。この極めて有利な取引について、詩歌355は説明しています。この詩歌はアンブリュー・ユニー兄弟が選んだ彼の好きな詩歌でもあります。

355 ささげる — 万有を得る(英473)

1. サタンのわい賂を断ち、かみに生一きる;
かみに生きるひとの 所とくは無限;
せいも死もすべては、 そのひとのもの。
キリスト、わがいのち、われの住まい。
2. われのようなものを 主はえらばれた;
それにおうじないとは、 なんとること!
犠せいなどと言うまい、 どんない価値も;
主のぐんたいに入る、 何たるけん利!
3. 無にひとしい価値、 支はらうだけで、
ひと、事ぶつすべては、 われのものぞ;
主のものはわがもの、 われは主といち;
無限のいのち享受す、 何たるえきぞ!

4:12 死は私たちの中で働き、命はあなたがたの中で働くのです。新契約の奉仕者は、十字架の殺しを経験して初めて、他の人に命を分与することができます。

祈り:おお主イエスよ、ヨブは自分の受けた患難をとて重いものと考えましたが、パウロは自分の患難をつかの間の軽いものと考えました。私たちは軽く一時的な患難を通して、栄光から栄光へ、主と同じかたちへと造り変えられていきます。重く永遠の価値のある神の栄光が、私の内側に増し加えられることを感謝します。聖霊の管理の下で、十字架の殺しを経験し、キリストと召会のために、他の人に命を分与することができますように。